

年間第 21 主日 (マタイ 16:13-20)

わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる



「あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。」(16・18) ペトロのイエス様理解は、非常に的確でした。私たちがその場に居て、これだけの言葉を発することができるだろうかと考え、いかにすぐれた答えをしたかが分かります。たぶんこれだけの答えを、私たちは返すことはできないからです。

そのペトロに、大きな使命が託されます。「わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天井でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天井でも解かれる。」(16・19) この「鍵」について、今週はこだわってみたいと思います。

「鍵」について、イエス様は他の場面でも使いました。その中で関係ありそうだなと思われるのはルカ 11 章での使い方です。イエス様は律法の専門家に厳しい言葉を投げかけます。「あなたたち律法の専門家は不幸だ。知識の鍵を取り上げ、自分が入らないばかりか、入ろうとする人々をも妨げてきたからだ。」(ルカ 11・52) 本来なら「知識の鍵」を授けられて、人々を天の国へと導く指導的立場にあったのに、彼らはそのチャンスを放棄してしまいました。

天の国は、天の国の知識を持つ人々に開放されます。当時のことを考えると、家には門があり、門には鍵が掛けられていました。天の国の知識を持つ人々は、鍵を開けてもらってその門を通り、天の国に招かれるはずでした。本来、律法の専門家に鍵の開け閉めが任せられるはずだったのに、イエス様を信頼できなかった彼らは、天の国の知識の鍵を使いこなせませんでした。

おそらく、ペトロに授けられた鍵は、この律法の専門家とのやり取りと対比させられているのでしょう。ペトロは、イエス様に全面的に信頼を寄せていたので、天の父が的確な答えを与えてくださり、さらにイエス様から「天の国の鍵」を授けてもらったのです。自分の学識知識により頼む律法の専門家ではなく、すべてを捨ててイエスについてきた、一介の漁師に過ぎないペトロこそ、「天の国の鍵」を授けるにふさわしい人物だったのです。

一つ疑問が残るのですが、「鍵」は物理的な鍵だったのでしょうか。律法の専門家とのやり取りの中でも「知識の鍵」という言い方でした。「わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。」この鍵はどんな鍵だったのでしょうか。今や車の鍵でさえも、物理的な鍵ではなくなってきましたね。いったいどんな鍵だったのでしょうか。

こう考えてはいかがでしょうか。イエス様は復活して弟子たちに現れたときにこう言いました。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」(ヨハネ 20・22-23) つまりペトロとその後継者たちに与えられる聖霊こそが、天の国の鍵だったのではな

いでしょうか。

ペトロの時代にも、建てられたばかりの教会組織の運営にはさまざまな問題が生じました。その後の教会でも、正しく信仰を受け継ぐ中で、都合良く信仰をゆがめたり、信仰に反する生き方を安易に選んだりして、さまざまな問題が生じました。それらの問題解決の「鍵」となったのが、「聖霊の導き、照らし」だったわけです。

今も教会は、さまざまな問題に直面しています。社会の法律は、どんどん変更され、今を生きる人にある面では都合を優先して法が整備されます。そんな中で、「天の国の鍵」を授けられたペトロの後継者たちは、難しい舵取りをしていると言えるでしょう。難しい舵取りが可能なのは、まさに「聖霊の導き、照らし」のおかげです。

「天の国の鍵」は、人間が勝手に設けたものではなく、イエス様から直接手渡されました。この鍵を扱うペトロの後継者の方々のために、暑さが極みまで来ているこの時期ですが、お祈りしたいと思います。

年間第 22 主日(マタイ 16:21-27)